英語は世界への架け橋-Bridge-です 将来の自分をより広い世界に導く英語学習

My English Learning MEL®

- 日本の英語教育について
- **MEL (My English Learning)**とは
- MEL School 三鷹
- Bridge to MEL(中高一貫教材)



日本の英語教育

今の中高生が大学生になるころには英語で授業に参加することが、彼らが社会にでるころには世界の人々と英語でのコミュニケーションをとることが必要になります。では、日本の英語教育はコミュニケーション力を育成するのに適当なのでしょうか

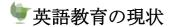
●海外への留学生数

海外留学する日本人の数は減少を続け、2010年には5万8千人と、ピークの2004年と比べて3割も減少しました。これは20年前とほぼ同じ数にあたります。また、世界中から多くの学生が集まるアメリカの大学への日本からの留学生は10年前から半数以上減って2万人を下回り、トップの中国の10分の1にまで落ち込んでいます。経済的な問題や就職活動などの影響もあるでしょうが、海外留学する若者の減少傾向が続いているのは、英語を使う必然性に対する認識不足や、内向き志向の表れと言えるでしょう。

アメリカの大学への留学生数の推移

	2002	2007	2012
中国	63,211	67,723	194,029
インド	66,836	83,833	100,270
韓国	49,046	62,392	72,295
日本	46,810	35,282	19,966

単位: 人 出典: Open Doors Data by Institute of International Education



日本の英語教育もいろいろな取り組みが為されていますが、多くの学校や塾の授業では相変わらず難解な文法や 文章の説明、問題集の確認などが授業の中心です。特に高校では教科書の本文を読む時以外は挨拶まで日本語で 行われる授業や、生徒が一言も英語を発することがない授業が珍しくないようです。試験は穴埋めや選択問題な どが中心で、英語を使う力を測るライティングや面接試験はあまり行われていません。

こうしたなかで、小中高の連携によって英語が使える日本人を育成するために、2010 年度から小学校の英語活動が始まりました。2012 年度からの中学の新学習指導要領では、コミュニケーション能力の基礎を養うことを目指しています。具体的には、●外国語を通じて言語や文化に対する理解を深めること ●積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること ●聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うことなどが目標として設定されています。2013 年度からの高校の新指導要領には、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うために、科目の再編成や学習語彙の増加が盛り込まれています。こうした目標を実現するには、紙上の試験対策ではなく英語を使う授業活動が必要になります。

♥ 求められる大学の国際化

英語でのコミュニケーション力が、企業や社会でますます求められるなかで、大学もそうした社会のニーズに適応した人材の育成と、大学自体の国際競争力の強化が必要となります。また、今後は国際化に向けて大学の授業の英語化も広がり、大学入試や大学での学習自体も大きく変わっていくことになるでしょう。

今の小中高生が大学生になる頃には英語で授業に参加することや外国人と一緒に学ぶことが、そして彼らが将来 活躍する社会では英語で仕事をすることがごく当たり前になります。

♥英語での学習力

以下は TOEFL®試験(主にアメリカの大学に留学する際に必要な英語力の測定試験)のアジア諸国の平均スコアを比べたものです。この試験には Speaking や Writing の実技に加えてメモをする、要約する、言い換えたり書き換えたりするなど、大学での学習に必要な実践的な技能も求められています。アメリカ留学への関心が薄れてきているとはいえ、日本の英語学習に熱心な受験者のスコア平均が、他の国々の学習者と比べて著しく低いことが明らかです。スコアが低いと、英語による授業や留学の際に、内容を理解することが出来たとしても、質問に答える、意見を言うなど授業に積極的に参加する、レポートを書く、などにおいてハンデとなります。

TOEFL® iBT Total Score Means Source: ETS

	2007	2008	2009	2010	2011
Singapore	100	100	99	98	99
India	84	87	90	92	92
Korea	77	78	81	81	82
China	78	76	76	77	77
Taiwan	72	73	74	76	77
Indonesia	78	79	79	78	78
Japan	65	66	67	7 0	69

*左記の数値は主に留学を考えている人を中心とした 各国の受験者の測定結果なので、一般の生徒や学生の 平均値ではありません。

受験料が日本やシンガポールで US\$225-230、韓国でも US\$170、また、試験時間が 4 時間を越えるなど、手軽に 受けられる試験ではないため、英語での学習や留学に関心の高い人たちの実力を比較した指標と考えられます。

これからの英語教育

[小学校] 2011年度から5年生と6年生で週1回の英語が必修になりました。当面成績評価はされませんが、小学校からの英語活動を踏まえ、中学校で学習の到達水準を高めることが期待されています。

[中学校] 2012 年度に全学年一斉に大幅に拡充された新教科書に切り替わりました。授業数(週 3→4 コマ)、語彙数(900→1,200語)の増加が盛り込まれ、正しく英語でコミュニケーションする力が求められています。

[高校] 2013 年度から、高校でも中学での英語教育の拡充を踏まえた新学習指導要領への移行が始まりました。科目の変更や教科書の改訂に加えて、英語を使った活動の強化、語彙数の増加 (1,300 語→1,800 語) などがあります。こうした学習内容の変化にともない、大学入試でもこれまで以上に英語を使う力が求められるでしょう。

【大学】国際社会に対応できる人材の育成を図って海外の大学への、または海外からの留学生を増やす動きが広がってきました。 英語で授業を行う学部の新設、英語で行う授業の拡大や、授業を完全に英語化する大学も増えてきました。これからは大学に入学 するためではなく大学で学習できる、レポートが書ける、更に参加型の授業で発信出来るような英語力が必要です。

[社会] 企業が求めるのは就活のための TOEIC®スコアではなく、国際社会でいろいろな環境や土地、人々や文化においても力を 発揮することができる資質や力です。そのためには、しっかりとしたコミュニケーションが出来る自信と力が必要です。

=>これからは、大学で英語の授業に参加できる英語力を中学から高校の間に身につけておくことが必要です

MEL® (My English Learning)

子どもたちが将来、自ら英語を使ってコミュニケーションする力を育成すること。 それが MEL(y = My English Learning) 活動の目指すゴールです

英語を練習して身につける

外国語は勉強するだけでは身につきません。実際にそのことばを使い、間違い、修正し、さらに使う、ということを繰り返すことで少しずつ身についていきます。日本に住んでいる以上、日常的に英語を使う機会にはなかなか恵まれないため、英語を使う練習をするための機会を作る必要があります。また、生徒の学習ステージに合わせて次のような練習活動を継続的に行うことで、より効果的な学習機会にしていくことが求められます。

- (1) 使い方を覚える、慣れるための練習 音読や応答、リピートや書きとり
- (2) 使い方を身につけるための練習 繰り返しや言い換え、和文英訳や英文和訳
- (3) 使うための練習 ライティングやプレゼンテーション、要約、意見を述べる

このような練習活動を行うためには、良質なコンテンツを適切な時期に大量に読ませたり、聞かせたりすることが必要になります。多くの英語に触れことばを覚えながら理解を深め、ライティングやスピーチ、ディスカッションなどのコミュニケーション活動を通じて、学習したことばや表現を使って自分の考えを伝える力を育成していくことが大切です。

学学校との相乗効果

英語を身につけるためにもっとも大切なのは学校の授業です。ただし、授業の内容を理解して自ら練習できる力が備わっていないと、わからないことが増えて消化できないままになってしまいます。授業の消化不良を解決するために補習塾などで手当てすると生徒は受動的になり、自学自習する力は養われません。

学校の授業で学習したことを身につけるためには、まず授業の内容をしっかりと理解して、学習した文法やことばを自ら練習できることが必要です。生徒の学習ステージに適当な練習を継続的に行い、学校で学ぶ力を高めることで、英語力が養われていきます。

MEL School の一貫コースでは毎週2回、音読や筆記、応答する、言い換える、対話する、説明する、作文する、それを発表するなど、英語を使う練習を行っています。練習を通じて聞く、読む、話す、書く、文法などの力をバランスよく身につけることで、学校の学習との相乗効果を生み、英語力を育成します。

- ・ 学習への意識と能力が備わってくる小学校高学年、または中学から将来に向かっての学習を開始します。
- ・ 一貫カリキュラムに沿った週2回の練習中心のレッスンで、英語の基本と使い方を身につけていきます。その力を中高を通じて伸ば すことによって、大学では英語で学習できる力を、国際社会では仕事で使える英語力の基礎を身につけます。
- 中学生で英検準 2 級から 2 級、高校生は TOEIC®で 500~800 点のスコアを取得し、学校で行われる GTEC や TOEIC®-Bridge などの英語の能力測定試験でも学校でトップレベルの成績を出すなどの成果が現れます。
- 予備校などの実施する模擬試験でも優秀な成績を収めており、高校入試や大学入試では英語力を活かして希望校への進学を果たしています。

一貫コースのステージ

アライマリ Primary Stage 小学 4-6 年対象

文字や感覚の育成

- ・ 英語の音、文字、文、文型、 語順に慣れる
- 読む、聞く、話す、書く を文法ステップで学習

英検の取得目安

5級・4級(3級)

Junior Stage

(小 6)中 1-3 年対象

基礎の育成

- 音読や応答で躾ける、細ラス
- ・練習や活動を通じて英語の 正しい理解や使い方を身に つける

シニア

Senior Stage

中学 3-高 2 対象

基本の育成

- ・基本文型や時制を運用練習で身につける
- ・幅広いテーマや実践的な学習課題を学習することで大学での学習に対応できる 理解力を養成

アドバンシング

Advancing Stage

高校 2-3 年対象

使う力の育成

- コミュニケーションの努力 や工夫をさせる
- ・幅広いテーマや実践的な 学習課題を学習することで 大学や社会での実践に 対応できる実力を養成

3級•準2級(2級)

2級•準1級

♥一貫コースのメリット

1. 学習ステージに適当な素材を使って学習する

どんなに優れた教材を使っても、学習時期が適当でないと効果が上がりにくくなってしまいます。たとえば、小学生に中学生の教科書を使用した場合、英語自体は易しくても、テーマが環境問題などでは知識やことばが追いつきません。教材には使用者の学齢を意識した場面やテーマが設定されているので、中学生用のものは中学生が学ぶべき他の科目と関連のあるテーマや場面などが選ばれています。例えば小学生であれば食べ物や家族、スポーツ、動物など、興味を持てるテーマで、高校生であれば社会や歴史をテーマにして学習することが大切です。学習者に適当な教材、学習テーマ、言語材料、視聴素材などを使うことによって、英語で理解や思考、表現することが効果的に出来るようになっていきます。

2. 中髙生に継続的な学習機会を与える

受験や進学などの環境変化も激しく、精神的・肉体的な成長もあり、中学・高校の6年間は子どもたちが大きな変化を遂げる時期です。子どもによっては、中学校のときには順調に力がついたのに高校に入って伸び悩んだり、反対に中学ではあまり成果が上がらなかったのに高校生になってから大いに力を発揮するようになるなどさまざまです。成長の過程は生徒によって異なるので、定期試験や単年度の評価だけでは潜在的な力を見落としがちです。一貫コースで週2回の学習を続けることで、たとえ一時的に学習に身が入らなくなっても、思春期などの精神的に不安定な時期があっても、力を伸ばせる機会が必ず訪れます。その機会を逃さないためには、継続的な学習環境を与えていくことが必要です。

3. 中高を一貫して英語を使う範囲を広げていく

ことばというものは一度学習しただけでは身に付きません。学習した文法や表現、語彙の使い方を繰り返し練習していくことが必要です。さらに、ことばを学習するということは、ことばを通して新しい情報を得たり、そこから学んだりすることでもあります。子どもたちは英語で書かれた、または話された内容を理解しながらことばを学んでいきます。学習ステージに応じてトピックやテーマを発展させていくことによって、生徒が英語を理解し、そしてまた、新しく使えることばの範囲が、次第に広がっていきます。

学習ステージと指導

子どもの学習能力の発展に合わせたステージ設定と指導。この2つが効果的に英語力を育成するためには重要な役割を果たします。小学校高学年から高校までを4つの学習ステージに分けることで、効果的な指導が可能になります

●小学校高学年

小学 4 年から 6 年ごろから自ら学習しようという意欲が芽生え、日本語で理解できることが増えていきます。英語に対する好奇心も高まり、表現や単語を興味を持って学ぶことができます。子どもらしい素直さが十分に残っている時期でもあるので、発音や音読、歌うことなどを恥ずかしがらずに大きな声で楽しんですることができます。この時期に英語の音声をたくさん聞く、英語の抑揚や意味のかたまりをしっかり捉えた音読練習をすることで、聞く力や発音がよくなります。また、英語で聞いたり読んだりした内容がわかる楽しさを味わいながら、文の仕組みを感覚的に理解する力が養われていきます。

♥中学1年から中学3年の前期

この時期には学校や教材、授業時間数、学力や他の教科の成績に依らず、自ら話そう、伝えよう、英語を使えるようになろうという意欲が強く、一生懸命に練習や努力をする生徒が特に力をつけます。そうした生徒はクラスで英語の成績がトップグループに入っているので自負心も生まれ、更なる向上心に結び付きます。

反対に、文法の先取りや問題集ばかりやらせていると、生徒は英語の学習目的が問題に正しく答えることだと思ってしまい、練習がおろそかになります。結果として中学の学習内容が身につかないため、高校での発展的な学習についていくことが出来なくなります。

中学で学習する英語の基本を習得するには、文法を意識せずに「正しく文が書けて、言える」ようになるまで学習した表現を使う練習を繰り返すことが必要です。そうした中学英語の基本があって初めて、高校でその力を大きく伸ばすことができるようになります。また、この時期の英語がしっかり使えるようになれば、将来自然な日常のコミュニケーションが出来るようになります。

学校の英語の授業は?

英語の授業時間は公立中学で週に4コマ、私立は同5~6コマで、その内1~2コマが外国人教師による会話の授業というのが一般的なようです。教材は公立中学では主に文部科学省の検定教科書を、中高一貫校の場合は検定教科書とその準拠か他の文法問題集を組み合せて使う学校が主流ですが、New Treasure や Progress などの検定外教科書を使う学校も増えています。

文法問題集は他の教科と同様、単元毎の問題を解いて理解を確認する、覚えるといったものがほとんどです。英語の学習に欠かせない、それまでに学習した文法やことばを復習する、それらを使って話す、書くなどの表現をする練習が出来ません。

授業では、「先生が説明-> 練習問題-> 解説-> テストで理解度を確認する」など、従来型の先生中心のものが未だに多いようです。残念ながら生徒同士で応答や対話をする、書かせて発表させるなどの英語を使う活動を中心とする授業は少数派のようです。高い成果をあげている学校は、教材を絞り込んで使いこむ、ライティングやプレゼンテーションなどのアウトプットをさせるなど、英語を使うことを目標とした指導を行っています。こうした学校の生徒は英検などの測定試験や模試、更に入試でも好成績を挙げています。反対に試験対策や先生の解説が中心の指導からは、必ずしも期待される成果が得られていないようです。

♥中学3年から高校にかけて

中3の後半からは生徒の学習への意識や学ぶ力が総じて高くなってきます。それまでに学習した内容がしっかりと身についていれば力を大きく伸ばせる時期です。一方で、生徒の英語力の差が広がっていく時期でもあります。 試験の成績が平均点並みだったり、英文を正確に読めない生徒は、基本が不十分なために授業についていけなっていきます。このような時期には、それまでに学習してきたことを使う練習によってしっかり固め、その上で高まってくる学習力や意識を活かして、高校での発展的な学習につなげていくことが特に大切です。

この時期に、MEL School の一貫コースでは次のようなことに配慮して指導を行っています。

- ★ 新しい学習事項(関係代名詞や条件節など)を練習する際に、学習してきた文法やことばを復習して定着させます。 特に人称、時制、助動詞、比較などの基本的な文法や表現の運用も併せて確認練習が出来るような配慮をしています。
- ★学習した文法や表現を言い換えたり、和文英訳などタスク型の練習を増やして、自ら英文を構成できるようさせます。

和文英訳のターゲット例(中3後半から高1程度) *青字は新しい学習事項 下線部は復習事項

- I have a classmate who talks much faster than anyone in our class.
- I'm going to write a report about a composer who wasn't respected when he was alive 200 years ago.
- If it rains, the bus always gets more crowded than usual. It often takes longer to get to the station.
- When my dad gets up earlier than my mom, he always makes breakfast for all of us.

♥高校から大学にかけて

高校1年生までに英語を使う基礎力がついていれば、高校2年生からは大学での授業を意識した学習を始めることができます。大学の英語による授業では、英語を学ぶのではなく「英語で新しいことを学ぶ」ことになります。 国内、海外を問わず、英語による授業では、授業がわかるだけではなくディスカッションに参加できるだけの発話力、プレゼンテーションやレポートなどができる力が必要です。一貫コースでは大学生向けの教材を使って幅広いテーマについて参加型のレッスンを行い、大学の授業に英語で参加できる力を磨きます。

中高の大きな段差

中学校では英語の点数が平均かそれを上回っていたのに、高校生になる と急落してしまう**中高ギャップ**に陥る生徒がみられます。

高校では中学の学習内容が身についていることを前提に、予習や自習が課されること、授業の進度が速くなること、教科書の語彙やテーマが急に難しくなること、多くの副教材を用いることなどがその理由をして挙げられます。したがって、中学の学習内容がどれだけ定着しているかによって、高校で英語の力を伸ばせるか、英語がまったく出来なくなってしまうかが決まります。





MEL School 三鷹 (メルスクールみたか)

MEL School 三鷹は、東京都三鷹市で My English Learning を実践している英語スクールです。小中高生を対象に週 2 回、一貫カリキュラムで音読や対話、読む、書く、聞く、話すなど、英語を使う練習活動中心のレッスンを行っています



MEL School にはさまざまな生徒が通っています

- ・中高一貫校の生徒・高校受験のある中学生
- ・大学附属の中高生 ・ニュートレジャーやプログレスで学習中の生徒
- ・帰国子女・留学を考えている生徒
- ・英語が好きな生徒 ・英語を使えるようになりたい生徒

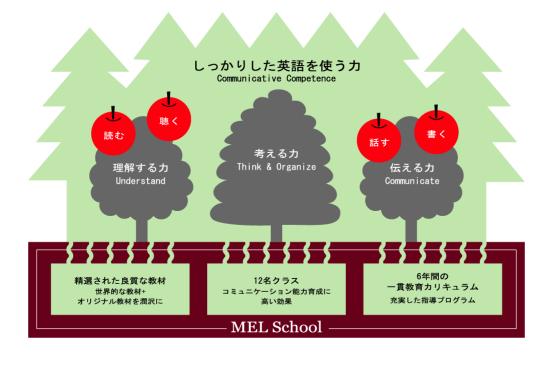
初めてアルファベットに触れる生徒から帰国子女まで、入校する時点 での学習経験は様々ですが、生徒たちはみんな週 2 回のレッスンで英 語を使う力を身につけています。



学校の学習を活かし、練習活動で英語を身につける

日常生活で使う機会のない英語を身につけるためには、学んだことを繰返し使う練習をすることが必要です。 学校の英語の授業は、休日や行事などもあっておおよそ年間 35 週程度で組まれています。公立中学校の英語授業は 1 コマ 50 分で週に 4 コマですから、年に約 140 コマ、116 時間の学習時間になります。これだけの授業時間では、英語を身につけるのに十分な練習をすることは出来ません。

MEL School では、学校で学習する文法や表現をテーマや語彙を広げて使う練習を行うことで、効果的に英語を身につけていきます。中 $1\cdot 2$ 年生は、1 回 100 分のレッスンが週に 2 回あるので学校の 4 コマ分、毎月 8 回で年に約 160 時間英語を使う練習をすることになります。小学 5 年から高校卒業までの 8 年間で、標準的な学校の累計授業時間は約 840 時間ですが、MEL School のレッスンを加えると 2,088 時間、約 2.5 倍になります。中 1 から高校卒業までの 6 年間でも、学校での学習時間 788 時間が MEL School のレッスンを加えると 1,876 時間、約 2.4 倍の時間になります。



■ MEL School の練習活動

MEL School では、生徒の英語でのコミュニケーション力を育成するために、学習ステージに応じた練習活動 を行っています。具体的には次のような練習活動を、扱う学習事項や生徒の成長の度合いに合わせて、日々のレ ッスンのなかで行っています。

(1) 使い方を覚える、慣れるための練習

- 音読練習:発音やアクセント、語や句の区切り (チャンク)、強弱や抑揚に注意しながら文意に沿って読む
- Read and Look up: 文章を読む際に、テキストを見てから文や節単位で顔を上げてテキストを見ないで読む (言う)
- 応答練習:人称や時制、動詞や助動詞の使い方に合わせて答える(Yes. => Yes, I did)、フルセンテンスで答える
- **反唱練習(単純リピート)**: 聞いたり言われたりした内容をそのまま反唱する
- 書取り練習:練習したり、聞いたり、言われたりした内容を覚えて書き取る
- Pattern Writing: モデル文章を参考に、同様の形式の文章を自分に当てはめて書く(自己紹介、他人の紹介など)

(2) 使い方を身につけるための練習

- なりきり/言い換え音読:登場人物になりきって音読し、他の生徒からの質問に答えるなど、内容への意識を高めた音読
- Repeat: 相手が言った内容を人称を変えて繰り返す、内容を含むフルセンテンスで答える
- **Report**: 相手が言ったこと、~ says/told me ...のように人称や時制を変化させて伝える
- 和文英訳: 学習した文法や表現、語彙を含む英文を、特に人称や時制、動詞の用法などに注意して作る
- 英文和訳: コンテクストにおける意味を理解し、適切な日本語を使って表現する
- Listening: 内容に関する設問にフルセンテンスで答える、Dictation する
- Reading (前期: Elementary, Pre-Intermediate): 大意を素早く理解する練習、背景や文脈を踏まえて意味を推測する、 理解した内容を適切に伝えるための英文和訳

(3) 使うための練習

- Short Speech : 各レッスンの開始時に当番の生徒がクラスに短いスピーチを行い、他の生徒は質問やコメントをする
- Q&A: Show & Tell や Presentation などで話し手に内容に関する質問をする、話し手は質問に答える
- Small Talk: トピックについて「何をしたい」、「どう思う」など、ペアで学習した表現を使ってカジュアルな対話をする
- Retelling: リスニングで聞いた内容を、順を追って要点を簡潔に説明する
- Reading (後期: Intermediate): Skimming と要点の把握、説明や例示の仕方、Summary の書き方、実践的なテーマに おける語彙や表現の使い方など、アウトプットに結び付ける練習をする
- Listening/Seeing: リスニングやビデオで視聴した内容や状況に関する問いに答える、説明する、意見や考えを述べる
- Summarizing: 読んだテキストの主旨や要点、その理由や説明、必要なら事例を適宜加えて要領よくまとめる
- Discussing: 読んだり視聴した内容に関する問いやテーマについて意見を述べる、交換する
- Writing: 読んだり視聴した内容に関するテーマについて時間や語数、パラグラフ構成などの指定に沿って書く
- Peer Review: Writing を他の生徒と交換して読んで分かり難い点、文法や綴りを確認してフィードバックや助言をする
- Revise & Presentation: Peer Review や講師によるチェックを踏まえて書いた内容を修正して読む、発表する

MEL School 三鷹のカリキュラム

Primary Stage

小学 4-6 年対象 1回 50 分

身の回りのテーマで 文字や感覚の育成をする

単語や文の読み書きや発音 短文や長文の音読の仕方 文の作り方(パターン練習) 基本表現の応答の仕方

-活動の例-

音読ルー

(リルー形式で音読して次の人に交代してい <活動)

Bongo Bingo

(単語の読み方や書き方、学習した表現を楽

しく練習する活動)

Junior Stage

中1-3 年対象 1回 100 分

身近なテーマで基礎の育成をする

幅広い日常的なことばや表現の練習時制や状況に応じた動詞の使い方の練習形容詞の使い方(比較、知覚動詞)まとまった文章のリスニングとリーディング音読、応答、リピート、Read and Look Up, 書き取りPattern Writing

-プレゼンテーションテストのトピック例-

自己紹介 日常生活について

家族や友だちの紹介 休暇中のことについて

行事・食事について 自分の部屋について

好きな映画について 出来事についての説明

これからのことについて

しなければならないことについて

標準的な学校の英語時間数と MEL School での学習時間

小学校の英語活動 1回45分×週1コマ×年35週間 ⇒ 1,575分≒年26時間 ⇒ 2年間で52時間 MELでの2年間1回50分×週2回 ×年48週間 ⇒ 4,800分=年80時間 ⇒ 2年間で160時間

小学校+MEL => 2 年間で 212 時間

中学校の英語授業1回 50 分×週 4 コマ×年 35 週間 ⇒ 7,000 分≒年 116 時間 ⇒ 3 年間で 350 時間

MEL の 1,2 年生 1 回 100 分×週 2 回×年 48 週間 => 9,600 分=年 160 時間

MEL の 3 年生 $1 \odot 120$ 分 \times 週 $2 \odot \times$ 年 48 週間 \implies 11,520 分=年 192 時間 \implies 3 年間で 512 時間

中学校+MEL => 3年間で 862 時間

高校での英語授業 1回 50 分×週 5 コマ×年 35 週間=> 8,750 分 ≒年 146 時間 => 3 年間で 438 時間 MEL での 1 年間 1回 120 分×週 2 回× 年 48 週間 => 11,520 分 ≒年 192 時間=> 3 年間で 576 時間

高校+MEL => 3年間で1,014時間

MEL School の一貫コースでは、週2回、年間96回ものレッスンがあります。 学齢や興味関心に合った教材と、ステージに応じた適切な練習活動で英語を使う力を育てます

Senior Stage

中学 3-高 2 対象 1回 120 分

テーマを広げて基礎的な運用力を高める

高校における基本語彙や表現の使い方の練習 英文和訳: 文脈に応じて適切な日本語で表現 和文英訳: 学習した文法や語彙を使って表現 間接話法や仮定法を含む時制の運用練習 大意を素早く読みとる、正確に聞き取る練習 理解した内容を説明する練習

-プレゼンテーションテストのトピック例-

日常について 自分の歴史 大切にしているもの 社会や環境

自分の課題と考察

(3 パラグラフでのエッセイ)

好きなもの 尊敬する人物/史実/運動

地域・環境・文化 自分の将来

Advancing Stage

高校 2-3 年対象 1回 120 分

大学の英語授業に対応出来る力を育成

大学の英語授業レベルのテーマや語彙で学習 理解した内容を説明して意見を述べる練習 意見を述べる、応答する、話し合う活動 サマリーの書き方、要約して伝える練習 パラグラフ→ エッセイライティング

- 学習してアウトプットするテーマの例 -

Literature Sciences Psychology

Anthropology Money Health

Social Studies History Law

Technology Trends Courtesy

Games Family Ties
Self-Reliance Global Health

Responsibility Success

学習の成果

MEL School の高校 3 年生 (Advancing-2)のクラスでは、大学での授業に備えた学習テーマで、おおよそ TOEIC®スコアで 700 以上、TOEFL®スコア (PBT)で 450~500 程度の内容のレッスンを行っています。受験や進学への備えとしては、この他に学校での学習と毎日 1 時間程度の練習を続けていれば十分です。受験準備に際して英語の学習時間が少なくて済むので、その時間を他の教科の学習にまわして総合的によい結果が生まれています。

大学でも MEL School の卒業生は英語では上位クラスです。 また、留学を前提とした国際関係の学部ではほとんどの授業が英語で行われ、読む量やレポートも多く、受験勉強より厳しい勉強が求められます。帰国子女でもついていくのが大変なようですが、 MEL School の卒業生は十分対応できています。



Bridge to MEL

Bridge to MELは、中学1年から高校1年の主要な文法や表現、語彙を練習で身に つける中高一貫の授業用教材。標準的な文法シラバスに準じながら、外国教材のよ うな自然な英語と実践的な練習課題で構成。主教材、副教材として利用できます



♥ 主な特長

Bridge to MEL は、授業で英語を使う練習や活動をするために制作された教材です。以下は主な特長です。

- ●一貫したストーリーと豊富なコンテンツで、日常的な表現やことばの使い方を繰返し練習 リサイクル練習
- ●新しい文法や表現、ことばの使い方を、それまでに練習したことに積み重ねて学んでいく **スパイラル学習**
- ●実践的なコンテンツで文法や語彙の使い方を練習し英語を理解して使う力を伸ばす コミュニケーションカ
- ●家庭学習用の練習問題と、授業での確認練習や活動に適した課題があるので学習効果が高い シナジー効果
- ●標準的な文法シラバスで幅広いことばの使い方を学び他教材や高校で発展的な学習にも連携 ブリッジ機能



練習とタスクで英語を使う力を身につける

Bridge to MEL は問題を解かせることではなく、例文や問題を使って練習させることが基本のテキストです。 特に Worktext 1 では音読や応答練習、言い換えや英訳をすることで、努力や練習量によってクラス全員が英語 の基礎を身につけることが出来ます。Worktext 2、Worktext 3と進むに従って言い換えや和文英訳、間接話法 やライティングなどのタスクを通して、英語を使う力を身につけていきます。

紙面には家庭での学習に適当な基本的な問題、授業での確認や練習用の問題、そして長文やライティングなどの タスクなど、使い方が明記されているので指導に便利です。

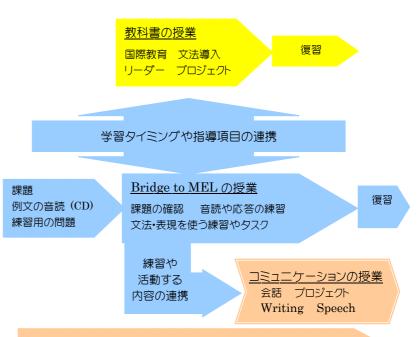


🖤 家庭学習と授業活動 による相乗効果

家庭学習課題として、付属の CD を使い ターゲット文を読む練習や、基本的な練 習問題を解かせて音読練習をさせること が出来ます。

授業ではその確認や使う練習、ペアワー クやライティングなど、クラス環境や Peer Pressure を活かした練習活動をさ せることが可能です。

また、教科書や他の教材との連携がしや すいので、限られた授業の枠や時間を有 効に使って学習効果を高められます。



理解力や英語感を高める教材: NHK 基礎英語、多読書、EFL 教材

♥ 豊富な語彙

文法問題集にある単元学習や、多くの学校で行っている一過性の単語テストだけでは、英語を使う力はもとより、 文法も語彙も身につきません。Bridge to MEL では一度導入された文法や表現は練習問題やコンテンツ、和文 英訳問題などで繰返し登場するので、それらの練習を通じてことばの使い方や語彙を身につけることができます。

CD や例文で学習することば	巻末 Word List	学習した文法や表現を含む長文問題

Worktext 1 動詞 90 語 18本 (100~380語) 996 語 21本 (200~500語) Worktext 2 動詞 134 語 1,684 語 Worktext 3 基本語彙 500 語 3,182 語 24本 (300~600語)



🎐 Bridge to MEL のシラバス 以下はBridge to MEL の学習範囲を示したものです。

Worktext 1→

音読や応答で躾ける・鍛える

Worktext $2 \rightarrow$

運用練習で身につけさせる

Worktext $3 \rightarrow$

タスクで努力や工夫をさせる

Stage 1 現在形の作り方使い方

*C1~2: be 動詞 C3: have/has

C4~5: 動詞·頻度

C6: 疑問詞·応答

Stage 2 さまざまな表現

C7: 現在進行形

C8: 代名詞, 亦答

C9: can, 命令文

C10: 数量, 応答

Stage 3 過去形の作り方

C11: 一般動詞 の過去形

C12: be 動詞の 過去形

*C = Chapter

Stage 4 現在/過去形の使い方

C13: 現在形 C14: 過去形

C15: 過去進行形

C16: there is/are

Stage 5 時制や動詞の使い方-1

C17: be going to

C18: 不定詞(目的) C19: will

C20: 不定詞(名詞) C21: 形容詞

Stage 6 説明や修飾表現の仕方-1

C22~23: 比較

C24: 不定詞(まとめ)

C25: 動名詞·時制

Stage 7 時制や動詞の使い方-2

C26: 現在形 C27: 過去形

C28~29: 現在完了形

Stage 8 動詞の使い方と文の構造

C30: 不定詞·It's...to·知覚動詞

C31: 受動態·時制

C32: 動詞·慣用表現·使役動詞

C33: 間接疑問文·過去完了

Stage 9 説明や修飾の表現の仕方-2

C34~35: 関係代名詞

C36: (複合)関係副詞

C37: if, 仮定法, 完了進行形

C38: 文法のまとめ

英検2級

英語の基礎

現在と過去の動詞の使い方と応答

=> 応答する力を育成

英語の基本

文の作り方・説明の仕方

=> 自己表現する力を育成

基本の発展

テーマの拡大と時制の運用

=> 理解力と説明する力を育成

英検取得段階のイメージ

英検準2級

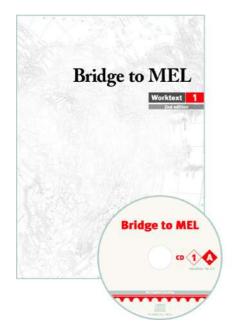
英検3級

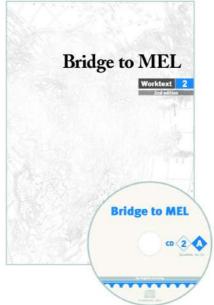
英検4級

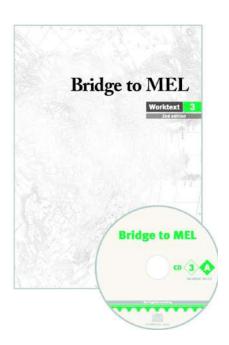


Bridge to MEL シリーズの構成

Bridge to MEL シリーズは、Starter, Worktext 1, 2, 3 および Workbook 3 で構成されています。







Bridge to MEL Worktext 1 (Chapters 1~12) CD2 枚付き

中学1年で学習する現在形の使い方と過去形の作り方を90語の動詞を使って練習し、過去形の作り方で全て復習します。

各間顕著号の「からあ	てはまるものを置んで適切	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
and T	e play like reac	
My favorite subject is his	story. We /have histor	y class on Tuesdays and Thursdays.
We (1) b	ooks *about people, plac	ces and things in the past.
On Wednesdays, we [2]_	P.E. clas	55.
We sometimes (3)	basketball and	in the swimming pool.
I (5)P.E	. class.	
[6]-[10] have study	like listen sing	9
On Thursday mornings, v	we [6]	nath, science, and English.
In the afternoon, we 171_	music el	ass.
We [8]t	o music and (9)	songs.
	music class.	

Exercise は動詞の使い方や表現のパターンプラクティスが中心で、自然なコンテクストで練習できるようになっています。 完成した文章を音読する、Read and Look up させる、ペアで 応答練習させるなどの授業活動が可能です。

自己表現のためのサンプルとしても使える課題も豊富にある ので、発信型の学習もさせやすくなっています。

Jennifer: Grandma, this is a new picture of Jiro. *Isn't he cute? Grandma: Yes, he is, (1) do you "take pictures of Jiro? Jennifer: Every week. Grandma: [2] do vou take Jiro for a walk? Jennifer: I usually walk Jiro in the morning. _ do you get up in the morning? Jennifer: I usually get up at five-thirty. I take Jiro for a walk for thirty *minutes. Grandma: You get up early. Is he a good dog? Jennifer: Yes, he is. He is always a very good dog. Grandma: Is he always nice to others, too? Jennifer: No, he isn't. He sometimes *barks at others. Grandma: Does he *bite? Jennifer: No. He never bites. Grandma: He is always a good dog to you but he is sometimes "noisy to others. Jennifer: Yes, he is.

各 Unit の最後には、そこまでに学習したことの総復習ができる Grammar in Use があります。プロジェクト型の課題、長文や対話文など、種類はさまざまです。

単元学習型の文法問題集とは違って、登場人物のストーリーが 続いているなど、生徒にとっては、楽しみながら文章の内容を 理解して練習することができます。

Bridge to MEL Worktext 2 (Chapters 13~25) CD2 枚付き

中学2年で学習する動詞や時制の使い方と比較表現を、Worktext1で導入した動詞90語に44の動詞を加えて練習します。

1+8	Complete the	sentences. Write is, isn't, was, w	vill OR won't. Also, write Ron's a	ge next year in
[1]	Ron	_ seven years old when Cindy	born. She	nine this year.
	How old	Ron be next year? He	be	next year.
[2]	Julie	out today. She	visiting her grandma in Seattl	e.
	She	come home until Sunday.		
[3]	Fred	at school yet. He left hor	ne just a few minutes ago. He	be
	late again.			
(4)	A: Hello, I ca	me here to talk to Mr. Riley. !	May I see him?	
	B: Sorry, he	in a meeting now.	ltfinish in half an	hour.
	Не	see you around noon.		
	WEGENERAL NO THE		you with a partner. S Repeat	020

導入期の練習問題やアクティビティーが豊富で、Worktext 1からスムーズに移行ができます。学習歴が浅い中学1年の1月頃からでも利用しやすく、生徒が出来ることを確実に増やせるので活発な授業活動が可能です。

また、基本となる現在形と過去形の復習、練習を充実させているので、クラス全体の理解度が高まります。

	Julie fell asleep!
Last night, I was too (a)	to finish my homework. The homework didn't
look too difficult and I needed to s	leep, so I decided to go to bed and get up an hour early to
finish it. I was "wrong, It took me	two hours to finish it! I didn't have time to eat breakfast. I
had to run to school. When I sat a	t my desk, I was happy to get to school on time. My first
class was Ms. Robinson's history c	lass. It's not my favorite subject. "wrong may two
After a while, I became too tire	ed to stay awake and fell asleep. When I woke up, I was
to find that Ms	s. Robinson was standing in front of me. She didn't look
happy. I felt so bad.	
After the class, I had to go to the	ne teachers' room to meet with Ms. Robinson. When I got
there, I was glad to find that she	didn't look so (c) . She smiled at me and
said, "You looked tired in my class	this morning, Julie." She didn't sound so (a)
either.	
"Yes. I was too tired to stay aw	ake this morning. I'm sorry that I fell asleep during your
class," I *apologized.	
"You ran to school this morning	, didn't you?" she asked.
"Yes, I did. How do you know t	hat?" I said.
"I was late and I was running r	ight after you this morning. I felt very tired when I got to
school," she said.	

Grammar in Use では、500 語前後の長文も多いため、大量の 英文を読むことに慣れさせることができ、学習した語彙や表 現も含めて復習することができます。また、各長文には Extra Task などのプロジェクト型の課題もあるので、ネイティブの先 生との授業の連携などもしやすくなります。

Bridge to MEL Worktext 3 (Chapters 26~38) CD3 枚、別冊 Workbook (124p) 付き

中学3年から高校1年の主要文法と基本語彙500語の使い方、間接話法やライティングの練習で運用力が身につきます。

1 仕事や雇用に関することば	リングの練習をしましょう。必要なら形	経変え例文を完成させましょう。 ■ ■ C・
■ employ ([人]を雇う)	■ 図 career (経歴、キャリア)	② position (職の口、[組織の]役
2 @ employment (雇用)	6 図 skill (技能・技術)	10 図 opportunity (機会)
■ employer (運い主)	2 ∈ salary (給与)	11 国 available (入手可能体)
② (国 employee (従業員)	■ payment (支払い)	正 (a) availability (得られる可能性)
People or companies that People	II (LA) & (E.5) p	eople are called 2 (羅い主(海))
People or companies that People	[1] ([人] を雇う)p	eople are called 2 (羅い主(海))
People or companies that People Many people *1 seek their	([人] を覆う)	eople are called 2 (羅い主(級)) (後雲馬(級) when they gradus
People or companies that People Many people *1 seek their	III (氏) を置う p e who are employed are called [3 r first job [4] (機会(優)) t a person wants to do is [5] (人手	eople are called 2 (羅い主(級)) (後雲馬(級) when they gradus
People or companies that People Many people *1 seek thei from school. If a job tha person *2 applies for the j	III (氏) を置う p e who are employed are called [3 r first job [4] (機会(優)) t a person wants to do is [5] (人手	eople are called [2] (爾山主 (鄉)) [(後集員(黎)] when they graduu 同時等) *2 applies for the job 類似日に接着

Vocabulary in Use では、高校での学習に欠かせない基本単語 500 語を、各 Unit で学習する文法や表現が盛り込まれた実践的な例文によって練習することが出来ます。

各 Chapter には Reporting(間接話法)の練習と Writing の課題もあるので、英語の運用力を育成することができます。

United Countries and Bodies The United Nations, also known as the UN, is an international orga was founded in 1945 after World War II. The organization was established to stop wars between countries and to provide a place to talk in peace. Its major aims are to bring cooperation in international law, peace and security, economic development, *1 humanitarian affairs, #2 human rights, and world peace. #1 humanitarian affairs 人面的文章 #2 human rights 本籍 There are 192 member countries *3 as of 2009, nearly every country in the world. Headquartered in New York, the UN holds its General Assembly each year b). roles include making policies and setting international laws. The Security Council is another unit e) plays a *4 significant role in the UN. It decides statements and actions for peace and security. There are other *5 bodies and organizations under the UN. #3 as of... 海点で #4 significant 重要な #5 bodies 機関 The United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization, also known as UNESCO, was established in 1945. It is a specialized agency of the United Nation purpose is to promote international cooperation through education, science, and culture. The United Nations Children's Fund, also known as UNICEF, was founded in 1946. It is also an agency of the United Nations e) was designed to provide emergency

Worktext 3の Grammar in Use のテーマは、身の回りの出来事から社会的な事象、更に国際社会に関するもの広がっていきます。文法や語彙の実践的な使い方を学習しながら、英語で高校生に必要な知識を広げていくことが出来ます。

Bridge to MEL Starter

Bridge to MEL での学習に入る前の準備を整えるための小冊子です。 アルファベットや単語の書き方の練習や、簡単なことばや表現を使った応答活動を行うことができます。単語や表現は Worktext 1で扱うものと小学校の「英語ノート」から選んでいます。5 月の連体頃までの導入学習に適当です。

Bridge to MEL Workbook 3

Worktext 3 で学習する文法や表現の使い方を練習するための授業用 Activity や、和文英訳などの個人学習課題、学習した語彙を使った和文英訳問題などを掲載。しっかりと英語を使う練習が出来ます。(Worktext 3 に付属)

Message from AIDEA

若者たちが活躍するこれからの数十年の間に、世界の人口は現在の70億から90億人へと増えていきます。 食糧や資源の融通、環境や自然災害などの対応、経済や社会活動、文化や教育、そして就業機会などは、 国境や民族、宗教や言語などの違いを越えて、広域化や国際化が進んでいくでしょう。

言うまでもなく、若者たちがこのようなグローバル社会で活躍していくにはコミュニケーションの手段として英語を用いることが前提になります。しかしスタートラインに立っただけではレースに勝てないので、世界の多くの学生たちは海外の競争力のある大学に留学して、英語力だけでなく自らの資質や競争力を高めるべく投資と努力をしています。

日本の子どもたちに世界への橋渡しとなる英語力を身につけさせることは、私たち大人の使命のひとつです。My English Learning の輪を広げること、それが私たちの願いです。

Corporate Profile

株式会社 AIDEA (アイデア) AIDEA は An Initiative to Develop English Ability の意です

MEL School 三鷹

ホームページ: www.myenglish.co.jp

所在地 : 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-33-13-101 (三鷹第2ビル1階)

email: mel@myenglish.co.jp

Phone: 0422-27-5366 Fax: 0422-42-2315

事業内容 : MEL School の運営、英語教材の制作と販売、学校への情報提供およびサポート、MEL の推進